



甘楽中学校の取り組み

心に残った修学旅行

今年度一学期の甘楽中学校の様子をお伝えします。
コロナも落ち着き、5月には全学年が修学旅行に行ってきました。
生徒それぞれの心に残った修学旅行の思い出をインタビューしました。



▲中学校HP

甘楽中学校
校長 井上高広
生徒 311人

スカイツリー



一年生
バス旅行 日光方面へ

一組 矢島 那奈
東武ワールドスクウェアでは、今後自分が旅行する場合に「行つてみたい場所」の夢が広がりました。日光東照宮では一番聞いてみたかった鳴き龍の音が聞けて、すごくうれしかったです！これで、運が上がると思います！行き帰りのバスの中も、とても楽しかったです。



日光東照宮

二年生
バス旅行 東京へ



上野公園入口

二組 越田 星那
雨のおかげで鳴き龍の音の響きがとてもよかったです。それと、昔の人の建築技術のすごさに驚きました。雨の旅行もなかなかいいものだなと実感しました。この旅行で新しい友達ができ、とてもうれしかったです。

三組 越陽向 汰
東武ワールドスクウェアでは、さまざまな国の建造物を見ることができました。今まで見たことも聞いたこともないようなすごい建築物まで詳しく見られて、「ここはこうなっているんだ」と細かいところまで知ることができました。

一組 佐俣 吉誠
修学旅行で東京に行ってきました。当日だけでなく下調べの時間からとても充実していて、友達との楽しい思い出がたくさんできました。東京では甘楽町にはない景色を見ることができました。最高の修学旅行にすることができました。



浅草寺雷門

ヤングケアラーについて

『ヤングケアラー』とは、本来ならば大人が担うはずの家事や家族の世話などを日常的にしている18歳未満の子どものことです。

その内容としては、①買い物・調理・掃除・洗濯などの家事②幼いきょうだいの世話③病気や障害のある家族の見守りや介護④日本語が話せない家族への通訳と同行介助などがあります。

子どもが大切な家族のために時間を過ごし、家の手伝いや家族の世話をすることはとてもすばらしいことです。しかし、それらに追われ学生生活を満喫できず、子ども自身が負担に感じているかもしれません。友達と過ごす楽しい時間も限られ、委員会や部活動に参加できずに悩んでいるかもしれません。学習に支障が生じ不登校傾向

教育相談室

◆問い合わせ
教育課学校教育係
☎(64)8323

の年齢や成長に見合わない責任や負担を、大人は負わせないでほしいのです。子どもを守ることもできるのは大人しかいません。
「理解してほしい、ヤングケアラーについて」。子どもたちの気持ちに寄り添い、必要な支援につなげていきます。お気軽に相談してください。

となったり、疲労も累積し睡眠不足など心身の健康にも悪影響を及ぼす可能性がヤングケアラーにはあります。
無理をしている子どもとその家族に「家族だから当たり前、支えあって当然」と、ヤングケアラーについての認識がないこともあります。家族の一員として頼られてやりがいを感じている子どもの存在を尊重しつつ、ヤングケアラーについて理解を深める必要があります。子どももです。子どもの年齢や成長に見合わない責任や負担を、大人は負わせないでほしいのです。子どもを守ることもできるのは大人しかいません。

三年生
「新幹線の旅 奈良・京都へ」

一組 町田 さくら
修学旅行の思い出は、一つに絞られないほどたくさんあります。初めて奈良・京都に行き、銀閣寺や清水寺などのたくさんさんの世界遺産に触れることができ、また、「保津川下り」などの貴重な体験もすることができました。中学生最後の修学旅行で、最高の思い出が作れてとてもうれしかったです。

二組 大河原 衣恋
一番印象に残っているのは、トロッコ列車に乗ったことです。トロッコ列車からの景色は葉の緑と輝く川が合わさってとてもきれいでした。風も心地よくて、到着までがあつた。風も心地よくて、到着までがあつた。風も心地よくて、到着までがあつた。風も心地よくて、到着までがあつた。



嵯峨野トロッコ列車



銀閣寺



清水寺

三組 吉田 蓮
中学校最後の修学旅行は楽しみでしたが、初めての宿泊ということもあり、不安がとても大きかったです。しかし、学級目標の「三喜」を胸にクラスみんなが団結し合うことで、最高の修学旅行になりました。これからもみんなで支え合い、楽しい思い出を築きあげていきたいです。

四組 生形 悠一郎
僕は今回の修学旅行で、日本の深く長い歴史を見て学びました。東大寺はとても大きく、迫力満点でした。境内は参拝者でこった返していましたが、それでも東大寺の強い存在は健在でした。また、夕食後に京都タワーから見た夜景も強く印象に残っています。僕にとって唯一無二の大切な思い出になりました。